

鉄含有量



水田の老朽化・根ぐされを防ぐ指標

一般の土壌には鉄が多く含まれていますが、老朽化した水田では作土から鉄が溶脱してしまい、少なくなっている場合があります。鉄が少なくなると土壌に硫化水素が発生しやすくなり、根ぐされなどを引き起こし、いわゆる秋落ちを生じる可能性があります。そのため、水田では適正な鉄レベルとなるように管理することが重要です。

◆目標

国の地力増進基本指針では、遊離酸化鉄として0.8%以上となっていますが、1.5～4%程度が望ましいでしょう。

◆改善のポイント

遊離酸化鉄が少ない場合は、次のような対策をとります。

- ①土壌に含鉄資材（転炉さいなど）を施用することで改善する。
- ②作土から鉄が溶脱して、下層に移動していることがあるので、その層を掘り上げ、作土と混合することで、作土層の鉄含量を改善することも可能です。ただし、その場合には、作土およびすき床層とその直下5～10cm程度の土層の遊離酸化鉄含有率を測定し、さらに不足する成分を含鉄資材で補う必要があります。

